

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2110号

2012年04月16日(月曜日)

《 from the sky 》

この号は欧州(フランクフルト)から日本(関西国際空港)への移動時間帯に当たるために見送ろうと思っておりましたが、ルフトハンザが最近始めたフライネット(FlyNet)で空からの送信が可能だと分かって「それも面白い」と思ったので、空の上で作成し、空から送信する初めてのニュースとして送ります。

欧州行きは1年4ヶ月前のスペインに続いてですが、今回はギリシャを見るのが狙いでした。「今この国で何が起きているか」をこの目で見て、債務問題に揺れるギリシャや欧州の現状と今後を考えることでした。今回は非常に短いアテネ滞在でしたが、興味深いいくつかの点に気付きましたので、通常の号とは違う形で簡単に報告したいと思います。

アテネとその周辺を回って強く印象に残ったのは次の5点です。

1. 凄まじい量の落書き
2. これも凄い割合で存在する閉鎖した店舗
3. にもかかわらずの移民の流入
4. その一方で、国内での職の喪失による労働者の国外流出(ドイツ、イタリア、豪州などへ)
5. しかし常に魅力としてある蒼い空と海、そして明るい太陽

「5」は常にギリシャにとっての魅力ナンバーワンです。まだシーズン前なのに、観光客は多かった。ホテルの窓から見えたのでアクロポリスまで歩き、パルテノン神殿まで上がりました。息が切れましたが、紀元前何世紀かの遺跡がまだ残る街はなんと言っても魅力です。その壮大な石の創造物。何とかという山(名前を聞いたが忘れました)から全部運んだそうです。奴隷を使って。20キロを4日間で。

その後タクシーを拾って「海を見たい」と言ったら、運転手が親切な人で何と半島の先にあるポセイドン神殿まで連れて行ってくれた。最初は風が強く曇っていたが、ドライブの最後には素晴らしく綺麗な空と海になった。街中が遺跡のようなものです。ギリシャには永遠の魅力があると思いました。これでは「夏は41度にもなる中で、ドイツ人のように一生懸命働かないよな」と勝手に思いました。果物も豊富、海の幸はマーケ

ットに行ってもヨダレが出るほど良いものが多い。。野菜も豊富。冬の間は食べるものがないので、豚の血までソーセージにしていたドイツとは全く違う環境です。「観光」はこの先もギリシャ最大の産業でしょう。

落書きは酷い。それこそそこら中です。「キッズが」とタクシーの運転手が言っていた。「many years ago」からだそうだが、これを見ただけでとてもまともな街には見えない。閉鎖している商店の数も半端ではない。イースターを控えて店を休んでいるわけではなく、ギリシャの人達が皆「最近閉まった」「職を失った人が多い」というのだから、直近の、ここ1～2年の話でしょう。

《 still rising unemployment 》

それを示す統計が滞在中に読んだインターナショナル・ヘラルド・トリビューン（ギリシャセクション）に載っていた。Hellenic Statistical Authority (ELSTAT) の発表として

1. 今年1月のギリシャの失業率は21.8%で、これは昨年12月の21.2%からさらに上昇した。2011年1月の同国失業率は14.8%。2008年の同国の失業率は7.8%だったそうで、詰まるところギリシャの失業率は2008年からは3倍に、2010年からは2倍に上昇している
2. 今年1月末までの1年間にギリシャで職を失った人は36万3369人で、つまりギリシャでは毎日1000人が職を失っていることになる。1月末でギリシャの失業者の総数は108万4668人に達した（ちなみに、ギリシャの人口は1100万）

すさまじい統計が並ぶ。ギリシャの人達が例外なく「酷い景気だ」と憤るのには理由がある。中でも若者の失業率はいろいろな統計で50%を超えるとされる。台頭してきているのが極右だ。その名前を「黄金の夜明け」と言う。英語では「Golden Dawn」。5月6日に行われる総選挙で得票率が3%を超えて議会で勢力を持ちそうだということで、俄然注目を浴びている。彼等が訴えるのが「移民排斥」だ。

実際所、アテネの街を歩いているとギリシャはアジア、欧州、北アフリカの接点だと分かる。実に多様な人種の人々が居る。明らかにインド人っぽい人、北アフリカの人、色白な北欧系の人、そして浅黒いギリシャ系の人。欧州とアジアと北アフリカのクロスロードの国であり、実に多様な人々が流入している。

今移民がやっている仕事をギリシャ人がやるかと言われれば、「そうではないだろう」と思う。イタリアでもそうだが、そこで生まれた人はカッコいい仕事をしたいし、それしか探さないのだ。しかし自分が失業しているのは、「移民のせいだ」と考える人も多い。フランスでも、極右はそういう人達には魅力の勢力だ。その一方で、イタリア、

ドイツ、それに最近ではオーストラリアに出稼ぎに行くギリシャ人が増えているという。国内には仕事がないからだ。

「ギリシャはクロスロード」と先に書いた。おそらくそれがギリシャをダメにした原因の一つだ。ギリシャはある意味恵まれていた。西側はギリシャを自らの仲間に入れて、このアジア臭のする国を防波堤にしようとした。だから、ギリシャにはいろいろな意味で援助が入った。色々な大国がギリシャに援助を与えて恩を売った。その度に援助が入ってきたし、最近ではギリシャはオリンピックもやった。EUの「援助」も入った。

ギリシャ人の何人かに聞いたが、EU 離脱は無論のこと、ユーロ離脱にも反対だと言う。その理由は、「ギリシャは彼等に支援してもらっている」「これといった産業がないから」というものだった。

《 corruption 》

援助しているのはドイツであり IMF だ。しかしこの二つに対するギリシャの人々の怒りは強い。誰に聞いてもだ。「今のギリシャでの失業の急増は IMF と政治家のせいだ」と彼等は言う。確かにその側面はある。韓国でもそうだが、IMF が入るとその国は一時的であるかどうかに関係なく、失業率の大幅な上昇に見舞われる。ギリシャの場合はその程度が半端ではない。既に掲げた統計で見たとおりだ。

誰がギリシャを「援助頼みの」「産業と言ったら観光しかない」国にしたのか。何人かの人と話したら例外なく「政治家が悪い」という。彼等が好んで使う言葉は「corruption」(汚職)だ。何十回となく出てくる。タクシーの運転手は、今走っているこの道路の建設にしても「政治家の懐にお金が入っている」と非難した。IMF の政策を導入したのも過去の政治家だ、と彼等は怒る。

「でもその政治家を選んでいるのは国民だよ」と私が聞くと、「彼等は我々国民を政府の良い職に就けてやるとか、いろいろ誘うんだよ。それには勝てない」と。そう言えば、ギリシャは危機前は、働く国民に占める公務員の割合が非常に高い国だった。「そういうプロセスの中で公務員が増えたのか」と思った。結局政治家と国民はもたれあっていたのだ。援助がそのプロセスを長引かせた。しかし永遠に続くパーティーはない。夢はいつか醒める。その目覚めはあまりにも悪いし、悲しい。

ギリシャの国民はドイツに対する憎しみにも似た感情を何回も表明した。そもそもギリシャは第二次世界大戦の際にドイツに占領されて酷い目に遭っている。EU や IMF のギリシャに対する厳しい融資条件の背景には「ドイツがいる」と彼等は考えている。自分達が起こした危機のおかげでユーロが安くなり、それがドイツの工業製品の輸出を助けていることも知っている。ドイツの輸出企業(ダイムラーやBMWなど)の業績は目を見張るばかりだ。ドイツの失業率はギリシャの半分以下。若者の失業率はギリシャの10分の1程度しかない。

こんな状況でドイツや IMF が好きになれる筈がないのは確かだ。「じゃ、ユーロから離脱して独自の道を選ぶか」と聞くと、彼等は「それはダメだ」と言う。「戦争被害とかでギリシャは欧州の犠牲になっている。もっと返してもらわないと」と言うし、ユーロを離脱したら、ドイツあたりからの借金が膨らんでしまう、とも言う。よくご存じなのだ。彼等は「ドイツの陰謀」のポイントとして、「産業を我々から奪った」と言う。「ギリシャは農業だって良かったのに、今はダメだ」と。

5月6日の総選挙は大事だ。今までのEUなどとの取り決めに反故にするような政治勢力が台頭したら、また事態は紛糾する。その可能性がないわけではない。そうならなくても、ギリシャの先行きは暗い。若者の半分以上が失業し、商店が次々に仕舞い、観光以外にこれといった産業もなく、自国通貨安で観光客を大量に誘致できないギリシャ。税収を上げるシステムも整っていない。緊縮すればするほど経済が萎縮する危険性があるし、自殺も増加している。

この国は、とてつもない危機の中にある。

今回はみてきまます。また機会があったら書きます。今週の主な予定は以下の通りです。

4月16日（月曜日）	米3月小売売上高 米3月小売売上高 米2月企業在庫 米4月NAHB住宅市場指数
4月17日（火曜日）	独4月ZEW景況感調査 米3月住宅着工件数 米3月建設許可件数 米3月鉱工業生産 米3月設備稼働率
4月18日（水曜日）	ブラジル金融政策委員会
4月19日（木曜日）	スペイン国債入札 米新規失業保険申請件数 米4月フィラデルフィア連銀製造業 景気指数 米3月景気先行指数 米3月中古住宅販売件数 ユーロ4月消費者信頼感 日3月貿易統計
4月20日（金曜日）	独4月Ifo-景気動向

4月21日（土曜日）

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。日本に全くいなかったのが日本の天気の話は知りませんでした。ずっとネットが繋がっていたので土曜日だけに東京を揺る地震があったことはツイッターで知っていました。飛行機に乗っていてもネットが繋がっているので、カレントの出来事（皆がツイートするような）は分かる。逆に出来事でないもの（例えば天気）は分からない。

機中でのネット。これは一種の革命ですね。上空はるか高くを飛ぶ飛行機の中から普段通りの接続が出来る。行きの成田発ミュンヘン行きでも、帰りのフランクフルト発関空行きでも、ルフトハンザの飛行機の中でネット三昧。ツイッター、フェイスブック、そしてブログ更新や情報収集。「うーん、日経平均は111円上がっているのか」「黒田が勝ったんだ」といった感じで。この文章のように原稿を書いて送ることも出来る。機上でネットが出来るメリットは大きいのです。メールが処理できるし、情報分析も出来る。私が日常的に地上にいて出来る事が全て出来てしまうのです。あえてそこまでするかどうかは個人の自由ですが。

ユーチューブがどの程度のスピードで走るか見たら、地上と変わらない印象。ただしNHK オンデマンドは入り口まで行くが、最後は動かない。これはNHK オンデマンドが海外では見れないことと同じ理屈でしょう。送り手サイドが制約をかけている。機上でのネット接続は以前ボーイングがやったことがあった。しかしその時は利用者が少なかったと聞いていて、ボーイングそのものがその種の機種製造を止めてしまった。

今回は先行したこのルフトハンザを初めとして、航空各社は「空のネット」に注力せざるを得ないでしょう。なぜなら、ネットはそれほど私たちにとって必要不可欠、何をすることも必要なものになったからです。ここで繋がるのは、当然PCだけではありません。iphoneも動かしました。Wifiで繋がる機器全てです。利用法は簡単です。立ち上げると画面にルフトハンザのフライネットの画面が出てくる。そこでIDとパスを自分で決め、カードで決済です。その前にセキュリティー・コードが必要な。料金は24時間のロングで2000円前後。

それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。》

い申し上げます。》